

モデル集計^c

モデル	R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の 標準誤差
1	.424 ^a	.180	.162	4.5607
2	.553 ^b	.305	.274	4.2445

モデル集計^c

モデル	変化					Durbin-Watson の検定
	R2 乗変化量	F変化量	自由度1	自由度2	有意確率 F変化量	
1	.180	9.873	1	45	.003	2.050
2	.126	7.955	1	44	.007	

- a. 予測値: (定数)、執行額。
b. 予測値: (定数)、執行額, 平均余命。
c. 従属変数: H21～23の増減率

分散分析^c

モデル		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
1	回帰	205.363	1	205.363	9.873	.003 ^a
	残差	935.999	45	20.800		
	全体	1141.363	46			
2	回帰	348.678	2	174.339	9.677	.000 ^b
	残差	792.685	44	18.016		
	全体	1141.363	46			

- a. 予測値: (定数)、執行額。
b. 予測値: (定数)、執行額, 平均余命。
c. 従属変数: H21～23の増減率

係数^a

モデル		非標準化係数		標準化係 数	t	有意確率	B の 95% 信頼区間	
		B	標準誤差	ベータ			下限	上限
1	(定数)	-3.566	.910		-3.921	.000	-5.398	-1.734
	執行額	-2.55E-006	.000	-.424	-3.142	.003	.000	.000
2	(定数)	-245.344	85.727		-2.862	.006	-418.115	-72.573
	執行額	-2.24E-006	.000	-.373	-2.942	.005	.000	.000
	平均余命	3.112	1.103	.358	2.820	.007	.888	5.336

(結果の要約)

男性においては、強化モデル事業執行額が大きいほど、平均余命が短いほど、平成 21～23 年の自殺率増減が統計学的に有意に減少した。